

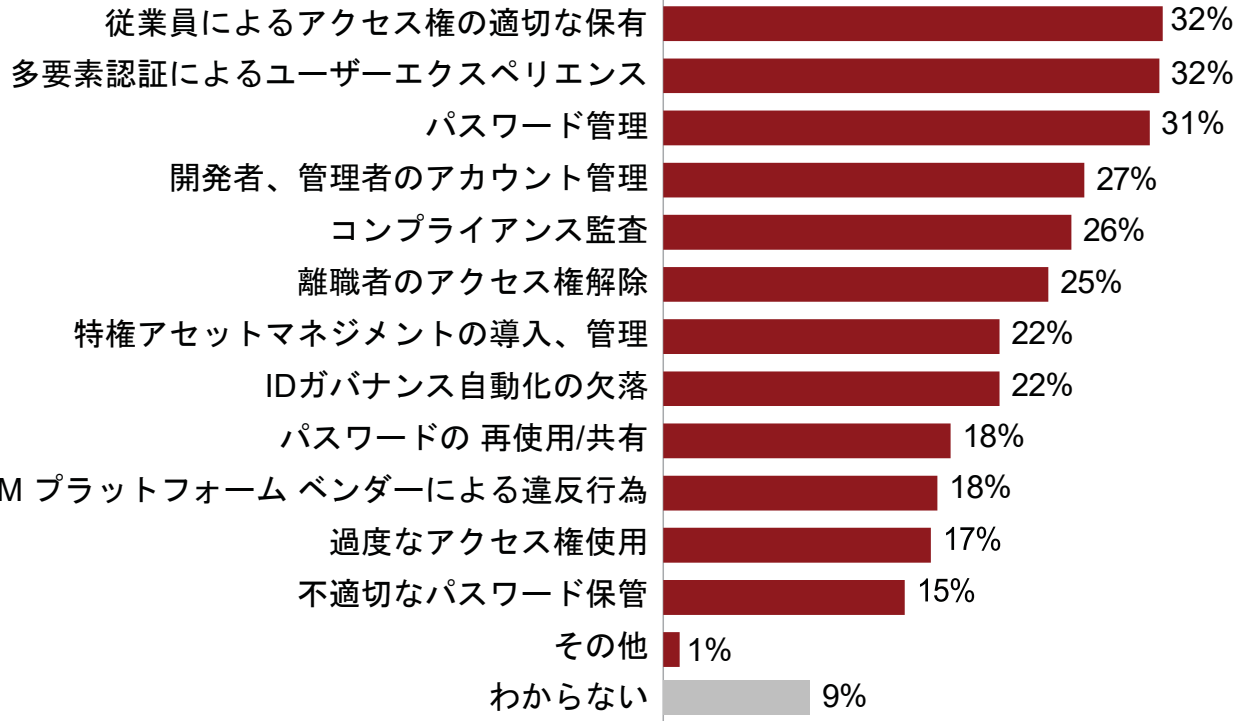
中小企業と特権アクセス管理 (PAM): 特権アクセス管理 (PAM)の一般化

課題

サイバーにおける脅威や攻撃が広く表面化している中、特権アクセス管理 (Privileged Access Management, PAM) がますます重要な課題になっています。被害をもたらした大半の違反行為は、認証情報の盗難や侵害で、そのためPAMによるラテラル移動等を経由した特権の上位化が最適な保護対策となっています。しかしながら、従来のPAM関連製品は高価なオンプレミス管理が必要で、導入に時間がかかり、すべてのユーザーやデバイスを監視・保護することができません。また、複雑で使い勝手が悪く、運用面では多数の操作者が必要とします。

以上のような理由から、大企業向けPAMは他のセキュリティツールに比べて大幅に遅れをとっています。451 Research社のボイス・オブ・エンタープライズ (VoE) サービスの調査データによると、43%の大企業がPAMを導入しています。これは、ネットワークセキュリティ、メールセキュリティ、エンドポイントセキュリティ、SIEM ツールなどの導入率が75%を越えている事実と比べると低くなっています。とりわけ、大企業のように財務的、技術的にリソースや人員が多くない中小企業 (SMB) にとってPAMの導入は悩ましい問題となっています。加えて、PAMの導入と管理は、ユーザーエクスペリエンス、パスワード管理、アクセス権管理だけでなく、ユーザーIDの管理も重要な課題となっています。

ID管理において、MFA、UX、PAM は重要な課題となっています。



質問 IDの管理またはガバナンスで、貴組織の重要な課題は何ですか？あてはまるものすべて選択してください。

対象：回答者全体 (n=479)

情報源：451 Research社のボイス・オブ・エンタープライズ (VoE) : 情報セキュリティ・ID管理 2022年

ビジネスインパクト

「特権ユーザー」の概念は非常に限定されています。PAMは、主にITスタッフ（データベース、ネットワーク、システム管理者、ネットワークエンジニアなど）、経営幹部、研究開発スタッフを保護するために設計されています。

従来のPAMは、オンプレミスでのインフラが保護されます。過去20年間、PAMは、UNIX、Linux、Windowsなどのオペレーティングシステムや、リレーショナルデータベース、IT、ネットワークインフラなど、限られたリソースの管理に重点を置いてきました。

中小企業でもPAMの導入は可能ですが、PAMの機能が複雑であり、コストが高いため、導入が難しいという課題があります。そのため、現在は主に大企業が利用しており、中小企業では導入が遅れている傾向があります。

PAMは大規模なID・アクセス管理（IAM）の複雑な仕組みの一部分をなしています。あらゆる規模の組織は、様々な攻撃や違法行為にさらされています。PAMのサイロ化を防ぐためにも組織の規模にかかわらずIAMスタックを全面的に整備する必要があります。

将来を見据えて

PAMの市場は「クラウドネイティブPAM」と呼ばれる分野が発展しており、クラウドコンピューティングへの移行が進んでいる今、この傾向はますます加速していくでしょう。クラウドネイティブPAMは、起業家にとっては「PAMの一般化」に対応するために必要なソリューションです。従来のPAMは、主にデータベース管理者やIT管理者向けでしたが、クラウドネイティブPAMは、データサイエンティスト、マーケティング/セールsteam、研究・開発チーム、経営層、デジタル知的財産、その他の極秘の企業データにアクセスする広範なユーザーをサポートすることができます。

「シフトレフト」が重要性が高まる中で、クラウドネイティブPAMもそれに適応する必要があります。具体的には、IaaS、PaaS、コンテナ、Kubernetes、サーバーレス機能、Infrastructure as Codeなど、様々なリソースに対応できるようになる必要があります。また、暫定的な特権やジャストインタイムアクセスの使用がさらに拡大する中、最先端のPAMポートフォリオでは、これらの使用をサポートしながら、クレデンシャルポルトやスタンディングポルトにとどまらず、PAMのあらゆるユースケースに対応する新たなテクノロジーの手法を採用する必要があります。組織全体にわたる完全な可視性、セキュリティ、コントロール、コンプライアンス、およびレポートを提供する、簡単で迅速な導入、簡単なクラウド移行ができること、メンテナンスが容易でコストを抑えられることにも配慮された統一されたPAMソリューションが求められています。これらの条件を満たすPAMソリューションであれば、中小企業や中堅企業でも導入が進められるでしょう。



KEEPER
Cybersecurity Starts Here®

KeeperPAMは、特権アクセス管理の次世代ソリューションで、ゼロトラストフレームワークとゼロ知識セキュリティを搭載しており、より高い安全性を提供します。パスワード管理、機密管理、特権アクセス、セキュアリモートアクセス、および暗号化メッセージなどの機能が、統合されたプラットフォームで提供されます。KeeperPAMは、マルチクラウド環境で使用可能で、ユーザーやデバイスの種類、操作場所に関係なく、あらゆる組織のニーズに対応します。初期費用がリーズナブルで、操作性に優れているため、既存の技術やIAMスタックにもスムーズに統合できます。詳細情報については、Keeperの担当者からご案内いたしますので、お気軽にデモをご覧ください。

